

## 2022 環境の科学シラバス

科目	環境の科学	単位	2	学年	全学年選択	使用教科書	自作教材を使用
----	-------	----	---	----	-------	-------	---------

### 1 学習の到達目標

- ・自然と人間生活との関わりについて、身近な事物・現象に関する調査・観察・実験などを通し、人間が自然に与える影響力の大きさを自覚させる。
- ・科学技術の人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、資源の消費や環境への負荷を抑えた、科学技術のありかたについて考察させる。
- ・科学的に探究するための思考や態度とともに観察、実験などの技術を身につけさせる。

### 2 学習計画

学期	月 (配当時間)	学 習 内 容
前 期 (38)	4月 (5)	沖縄の自然環境(1) 地理的特徴、沖縄の野鳥、サンゴ礁と石灰岩 海の危険生物
	5月 (8)	プラスチックの利用 身の回りの物質、燃焼実験、再利用
	6月 (8)	
	7月 (6)	自然を利用したものづくり
	8月 (2)	和紙作り (月桃紙、草紙、再生紙)、草木染め
	9月 (9)	沖縄の環境問題 赤土汚染、観光資源としての自然
後 期 (38)	10月 (8)	沖縄の自然環境(2) 沖縄の四季、沖縄の川と山、希少生物と保護、陸の危険生物
	11月 (8)	生活を支える環境
	12月 (6)	水の循環、水の浄化方法、石鹼と洗剤
		リサイクル
	1月 (7)	廃油でつくるローソク・石鹼、資源の再利用
	2月 (7)	環境問題 環境新聞作成
	3月 (2)	まとめ

### 3 評価の観点

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・自然と人間生活との関わりを理解し、それを深めるために必要な観察、実験などに関する技術を身につける。 科学技術と人間生活との関わりについて理解する。	実験技能 調査技能 ワークシート
思考・判断・表現	・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に思考し、判断する。探究している。	考察能力 実験レポート 環境新聞
主体的に取り組む態度	・身近な事物・現象に関心や探究心をもち、科学的に探究しようとしている。	授業観察 ワークシート

### 4 観点別学習状況の評価の数量化

観点別学習の評価	内 容	達成度 (%)	得点
A	十分満足できると判断されるもの	80~100	5
		60~79	4
B	おおむね満足できると判断されるもの	40~59	3
C	努力を要すると判断されるもの	20~39	2
		0~19	1

### 5 各学期の評価方法

3観点の合計点数	14~15	11~13	8~10	5~7	3~4
評 定	5	4	3	2	1